

令和5年度第3回 厚真町津波防災地域づくり推進協議会
議事要旨

○日 時：令和5年11月15日（火）13:30～15:30

○場 所：厚真町厚南会館 1階 大集会室（勇払郡厚真町字上厚真 219番地）

○出席者一覧：

定池会長	大橋委員	村上委員	西山委員
館山委員	吉岡委員	工藤委員	中瀬委員
保田委員	澤口委員	澤山委員	鈴木委員
阿部委員	吉田委員	平澤委員（代理）	西野委員

○次第

- 1 開会
- 2 報告
 - (1) 第2回津波防災地域づくり推進協議会の結果概要
 - (2) 第2回津波防災住民懇談会の結果概要
 - ① 津波防災住民懇談会の結果概要
 - ② サーフィン利用者懇談会の結果概要
 - (3) 浜厚真（JR以南）地区居住者へのヒアリング結果
 - (4) 先進地事例視察報告
- 3 議事
 - (1) 津波防災住民懇談会を踏まえた津波防災対策（案）
 - (2) 津波防災地域づくり推進計画（素案）
 - ① 第2回推進協議会以降の修正・追加事項
 - ② パブリックコメント日程
 - (3) その他
- 4 閉会

○配付資料

- ・次第
- ・資料1 出席者名簿・配席図
- ・資料2 委員名簿
- ・資料3-1 第2回津波防災地域づくり推進協議会の結果概要
- ・資料3-2 令和5年度第2回 厚真町津波防災地域づくり推進協議会 議事要旨
- ・資料4-1 第2回津波防災住民懇談会の結果概要
- ・資料4-2 第2回津波防災住民懇談会の結果
- ・資料5 先進地事例視察報告
- ・資料6 津波防災住民懇談会を踏まえた津波防災対策（案）
- ・資料7-1 厚真町津波防災地域づくり推進計画（素案）の概要
- ・資料7-2 意見照会結果
- ・資料7-3 厚真町津波防災地域づくり推進計画（素案）
- ・資料8 津波防災地域づくり推進計画（素案）意見提出書

○要旨

1 開会

2 報告（資料 3-1～5）

(1) 第2回津波防災地域づくり推進協議会の結果概要

(2) 第2回津波防災住民懇談会の結果概要

① 津波防災住民懇談会の結果概要

② サーフィン利用者懇談会の結果概要

(3) 浜厚真（JR以南）地区居住者へのヒアリング結果

(4) 先進地事例視察報告

●定池会長

- ・第2回住民懇談会では、避難施設建設候補地案、施設の平時の利用について様々な意見があった。平時利用案は、住民から前向きな展望を持った提案もあった。
- ・サーファー懇談会では、サーファーの自治の中で、町と協力した対応についての意見もあった。
- ・先進地事例視察で報告のあった静岡県伊豆市は、観光防災、観光危機管理の取り組みの先進事例の一つであり、厚真町においても今後参考になると考える。

●浜厚真自治会

- ・住民懇談会に参加する中で意見を述べることもあるが、自分自身の不勉強もあり、会議主旨と異なる意見を述べていると感ずることがある。趣旨と異なる意見を述べて会議時間が終了するのがもったいないと感じている。事務局等から知識の共有などあれば、趣旨に沿った意見も述べられると考える。

（定池会長）懇談会を実施していく中で、事務局としてまず住民の方々に前提情報を理解していただく、防災教育が必要であることを感じた。今後のご意見等頂きたい。

●tacoo surf

- ・災害はいつ発生するかわからない。サーフィン利用者の人数も、その日の波の状況や季節等で変わるため、状況の設定は難しい部分と考える。
- ・サーフィン利用者が、車で逃げる場合、走って逃げる場合など避難手段により、複数避難経路を想定しておくことが重要と考える。

3 議事

(1) 津波防災住民懇談会を踏まえた津波防災対策（案）（資料6）

●定池会長

- ・住民意見の中には、障がいなどのスペシャルニーズや医療ニーズが必要な住民の意見もあり、町は様々な住民の意見を確認した。町が進めている個別避難計画、福祉避難所の整備等とも関連するような住民意見があった。

●北海道開発局室蘭開発建設部苫小牧道路事務所

- ・高規格道路の新しいポイントに関する内容については、室蘭開発建設部本部とも説明内容を確認し、町と協議できればと考える。

●北海道胆振総合振興局 室蘭建設管理部苫小牧出張所

- ・広域避難に関し、避難所の収容人数や避難方法等について、10月末に町より報告を受けている。
- ・現在、道で道全体の状況を取りまとめている最中であり、胆振振興局へ回答があれば、関係者と調整を図っていくことを想定している。

●事務局

浜厚真地区は地区が広く内陸部に居住の住民もいるため地区全体の合意形成が適切なのかという点、住民の生命に係る非常に大事な決断を自治会長のみ委ねることは重責であるという点から、JR以南の住民と合意形成を図ることを主眼とした。様々な厳しい意見もあるが、時間をかけて説明し、最終的にJR以南の住民については町の考えに理解を頂けたと考えている。

- ・広範囲に及ぶ浜厚真地区の中でも一番の当事者となり得る住民に直接説明を行ったことで、町の方針に理解を得ることができ、良い機会であったと考えている。

●鹿沼自治会

- ・高規格道路の避難場所について、冬季の積雪時、道路幅が狭くトラクターによる除雪が難しい。
- ・現状、町役場職員が除雪を行っていると聞いている。
- ・設計時にどういった考えで設計を行ったのか。

（北海道開発局室蘭開発建設部苫小牧道路事務所）当時の設計思想については、現時点ではわからない。ただ、冬季の安全な避難ということについては、協議の上、提示していきたいと考える。

●厚真町社会福祉協議会

- ・サーフィン利用者や住民の意見を確認したとのことであるが、現在居住している住民の意見が重要であると考え。
- ・候補地等調整があると思うが、施設はあった方がいいという意見は、当然の意見と思う。ただ、維持管理に関しては、話は別になると考える。
- ・また、緊急時の備蓄などの防災設備についても備えておくことも必要である。
- ・現状は施設を早急に設置するということが最優先であると考え。
- ・サーフィン利用者も利用するというのであれば、徒歩ではなく車移動が主であるため、全体的に車移動のことを検討すれば、状況が変わると考える。

●胆振東部消防組合 厚真支署

- ・災害が発生すると、消防組合、消防団については津波到達までの活動時間を19分と定めており、その短い間に、4地区に分散し、地域住民及びサーフィン利用者に対し、避難指示のための巡回広報を実施するマニュアルを作成している。
- ・そのような活動の中で、個別に各住民の状況を確認することは困難である。
- ・何らかの形で、避難に配慮が必要な方の目印が示され、津波発生時の広報活動の中で住民の状況が確認できるのであれば、車に同乗して避難するという事は可能かと考える。
- ・今後、そのような形がとれるのであれば、町と協力して少しでも被害者を出さないように対応していければと考える。

●浜厚真自治会

- ・町が様々な検討を行っているが、地区の住民としては、津波からどうやって避難すればよいか、というところが一番重要である。
- ・そのため、道路が液状化で被害を受けるのであれば、複数の道路整備がよいと考える。住民意見として、2車線の道路を作って欲しいという意見もあったと思う。
- ・町の方針として、避難施設を建設することが前提になっているが、候補地は海に近く、住民サイドから言えば、海へ向かって避難することは、心理的には100%あり得ないと思う。
- ・津波が発生した際、具体的にどの程度の高さの波がどこまで来るかなど、イメージができていない。津波が発生した際、どういった被害が発生するかがいまいち伝わってこない。ビジュアル的にわかりやすく伝えて欲しい。
- ・また、先進地視察へ行ったとの話であるが、厚真町と地勢が似ているのかなど視察先の選定理由等を教えて欲しい。厚真町でのサーフィン利用者など、一時滞在者の扱いについて検討されている事例であるのか。

(定池会長)

- ・補足として、他の地域、特に南海トラフなどの危機が迫っている地域だと、津波避難タワーが建設されたことで、そこを目標として避難をするための訓練をするようになり、防災活動が活性化したエリアもある。ただ、コメントをいただいた通り、住民懇談会などでは道路等の心配な点を解消したいという意見が出されている。避難施設ありきではなく自分たちで車避難をするという前提でおられることについて、とてもありがたいことだと考えている。
- ・津波の想定などについては毎回の懇談会等で説明がされているわけではないので懇談会等と並行して津波の勉強会などの防災教育の必要があると考える。

(事務局)

- ・この二つの先進地を選んだ理由について説明する。
- ・伊豆市については、地域住民のみならず観光客や地域住民以外の来訪者も守りたいというコンセプトで検討されており、厚真町が考えているコンセプトと合致する部分がある。また、伊豆市は避難スペースだけではなく、例えば物販など、避難以外の機能を目指して整備していることから、今回視察を行った。
- ・伊豆市の施設は、海際で地域住民は海に向かって逃げることになるが、それ以外の避難場所への距離が遠く、海に向かって逃げることにする住民意見は無かったと聞いている。
- ・飛島村については、面積は異なるが人口規模は厚真町とほぼ同規模の自治体の先進事例として視察を行った。

- ・飛島村は、住宅地の中央に避難施設があるため、避難方向として海側、山側へのどちらへも避難することになる。飛島村全体が海拔より低く、逃げる場所が少ないという状況があり、避難施設を目印に避難するという共通認識を地域住民が持っている。地域の防災訓練時は車椅子の参加者などもいると聞いており、地域住民に馴染まれる施設であった。

●浜厚真自治会

- ・先日、津波の痕跡見学会に参加した。見学会では、津波は内陸まで到達しないという痕跡であったように思う。どの程度逃げればよいか、判断に迷う。
- ・例えば、具体的に『高規格道路を過ぎた時点で浸水は無い』など、標識でもあれば安心と思う。そういった、具体的な推測はできないのか。

(定池会長)

- ・先日の見学会では、津波堆積物の説明があったとうかがっている。津波堆積物は過去の津波の痕跡を示すものであるが、津波浸水想定は「この場所でこの規模の地震が起こったらどのぐらいの津波が発生する」という将来の予測である。そのため、将来の予測が過去の痕跡と一致する場合もあれば、異なる場合もある。浸水予測よりも小さい津波の痕跡だったことで戸惑いを感じられたと思うが、それぞれの背景が異なることにご留意いただけるとありがたい。

●鵜川漁業協同組合

- ・先進地事例では、一時滞在者の避難も考慮しているとのことであるが、地域住民は全員避難可能である想定なのか。それとも、ある程度、一時滞在者収容は見切りをつけているものなのか。
- ・浜厚真地区でも、サーフィン利用者で施設がいっぱいになり、地域住民が入れないということがあるのではないか。

(事務局) 伊豆市では、周辺の避難施設へ避難できない人数をシミュレーションで検討したうえで、避難者数の想定を行い、施設収容者数を設定している。厚真町においても同様に、地域住民と一時滞在者の数を推計し、施設収容者数の想定を行っている。一時滞在者数の推計は、携帯基地局によるビッグデータを活用し根拠としている。

(定池会長)

- ・静岡県の他の地域での取組みとして、海水浴場の近くにある津波避難タワーでは、住民自身は『津波避難タワーは海水浴客のための施設』と捉え、自分たちは少し離れた高台に避難すると決めている地域もある。
- ・都市部の事例ではあるが、東日本大震災の際に仙台駅の近くや病院の近くにある小学校の避難所は、帰宅困難者等が多く避難し、住民が避難できなかったという事例があった。
- ・だからといって厚真町の避難施設は来訪者のためと捉えるのではなく、地域住民のためのものでもあるということ踏まえていく必要があると考えている。
- ・収容人数算定の根拠として携帯基地局によるビッグデータを根拠としているという説明があった。浜厚真地区のイベントでは滞在人数が根拠データよりも多いと感じるが、計画策定においては根拠としてビッグデータの数値を使用する必要があることに難しさがあると思う。

● 鵜川漁業協同組合

- ・ 浜厚真地区の住民のために避難施設を建設というのは、心苦しいところはあるように思う。
- ・ サーフイン利用者を最大限収容可能な施設を建設するのか、常時居住している住民を最優先としてまず検討するのか。

(定池会長)

- ・ 今回の施設建設は、日常的にも活用でき、緊急避難場所としても使用できるような複合的な施設として想定されている。
- ・ 緊急時のためだけに多くの税金を投入して建設するとなると、住民の心苦しきがあるかもしれないが、住民、サーファーなどが日常的に活用できる緊急時の避難場所であると位置づけであると捉えている。
- ・ そのため、検討チームには厚真町まちづくり推進課も入っており、施設をどう活用していくか等は今後検討していくことになるだろう。

(2) 津波防災地域づくり推進計画（素案）

① 第2回推進協議会以降の修正・追加事項（資料7-1～7-3）

● 鵜川漁業協同組合

- ・ 地震時に、踏切の遮断機は降ろすのか。

(事務局)

- ・ 地震発生時に、踏切の近くを電車が走行し、踏切が降りたまま電車が緊急停止した場合、安全確認ができ電車が動き始めるまで遮断機は降りたままとなる。
- ・ 踏切の問題に関しては、全道的な課題であり、現在、国土交通省を含め、JR北海道と協議中である。

(定池会長) 踏切が降りたままとなり踏切を通行できない場合を想定し、避難経路とJR以南への避難施設建設の両方を検討するということが今回の案の背景にある。

● 鵜川漁業協同組合

- ・ 東日本大震災の際、午前4時半ごろ、寄港するフェリーはいたのか。
- ・ フェリーからの避難者はあったのか。

(新日海フェリー株式会社 苫小牧支店) 昼の寄港は無かった。小樽へも港があるため、そちらへ寄港したと思われる。沖待ちはしていない。

② パブリックコメント日程（資料7-1・資料8）

- ・ パブリックコメントによる厚真町津波防災地域づくり推進計画の修正について、定池会長の確認後に、第4回推進協議会に諮ることについて了承を得た。

4 閉会

- ・ 第4回協議会は、2月中旬～下旬頃に厚南会館において開催予定。
- ・ 津波防災地域づくり推進計画などについて、委員、関係機関に対して事前に確認を依頼する予定。

以 上

◆会議等写真

